

NEWS LETTER

VOL.1



一般社団法人
コミュニティ
メンタルヘルス
アウトリーチ協会

SINCE 2020

*今回は会員以外の方々もご覧になれます

ご挨拶

2021年度はアウトリーチネットが本格的に活動を開始した記念すべき1年となりました。コロナ禍という制限がある中でオンラインを活用した活動が中心となりましたが、皆様には各種活動を支えていただき、感謝申し上げます。

年度の締めくくりとして、ニュースレター第一号をお届けします。アウトリーチネットには5つの部会、3つの委員会があります。それぞれの2021年度の活動および2022年度の抱負についてご紹介いたします。

2022年度もどうぞよろしくお願いいたします。





ACT部会

浦林翼(メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ)

2021年度のACT部会の目標は「日本のACTを温めなおす」でした。とはいえ、年度の初めに公式に掲げたものではありません。この言葉は、前年度から毎月続けているコアメンバーミーティングの中で出てきました。

旧ACTネットからの移り変わりの時期にコロナ禍も重なり、2年以上フィデリティ調査が運用されていなかった実態。それに伴い全国のACTチームの交流も希薄になっている感覚がコアメンバーにはあったのだと思います。「あのチームはどうしているのだろうか」など、お節介なご近所おばさんのような会話になることもしばしばありました。何よりも、コアメンバーミーティングを通じて自分達がチーム以外の人たちの顔を確認して声を聞くことに、なんともいえない気恥ずかしさに包まれた温度を感じていたのかもしれません。

「日本のACTを温めなおす」この言葉の下で、フィデリティ調査員研修、フィデリティ調査、交流会などを企画してまいりました。この全ては、時勢を鑑みてオンライン上で行われています。

こと、フィデリティ調査は、初めての試みでありそこにはACT部会の熱がこもっています。当初「本当にできるのだろうか」「評価に大きな影響が出るのではないか」という不安が大きく私たちに覆いかぶさっているようでした。企画し始めた2020年度の末はコロナウィルスによる1月先の影響も見通せない状況。正直、実施を見送る理由は沢山ありました。しかし、「ACT部会がまずは動き出すべきだろう」と勝手な使命感があったのかもしれません。そんな動きだしから、気づけば2021年10月2日フィデリティ調査員研修を開催。30名を超える全国のACT実践者が集まってくれました。フィデリティ調査の経験者、未経験者様々ではありましたが、「日本でACTをやってる人はこんなにいるんだなあ」と有体に感じました。同時に、久しぶりにACTの濃い話が出来ることに嬉しくなった私個人が少しおしゃべりしすぎたようで、反省しております。2022年2月までの間に、研修を受けた調査員により全国13のACTチームがフィデリティ調査を受けることになるのですが、皆様の協力により大きなトラブルもなく完了しております。

フィデリティ調査の話題が大部分を占めてしまいましたが、コアメンバー以外の有志の方々が企画してくれた『ACT3年未満の実践者による交流会』も実施され、好評であったと伺っております。

これからも、全国のACTチームと実践者にとって意味のある、温度を感じる全国組織として活動を続けてまいります。

2022年度に向けて全国の皆さんが「あんなこといいな。出来たらいいな」をカタチに出来るような組織になっていきたいと考えております。



地域づくり部会

金井浩一(相談支援事業所しぽふぁーれ)

地域づくり部会は、精神障害のある人のみならず、社会的孤立状態にあるメンタルケアニーズのある人が、多様なすべての人々の中で孤立せず、互いに一市民として存在しあえるコミュニティづくりのためのアウトリーチを考える部会です。「当事者も含めた地域そのものを対象としたアウトリーチ」を検証し、コミュニティ全体のリカバリープロセスを支える手立てを発信、提唱する目的をもって発足しました。

今年度は部会員集め、部会規約の作成、コアメンバーによる定期的なオンライン会議の開催、部会員集めと共に今後検証していくにあたっての全国の実践ケースを集める、等を計画としていました。しかし、アウトリーチという文脈の中では新しい試みといえる本部会ということもあり、なかなか協会全体の中での部会の方向性を定め、発信することが難しく、またコロナの影響で各所でのいわゆる地域活動が停滞する中で、新しいムーブメントに賛同して下さる仲間を多くは得ることが出来なかった一年となりました。

来年度は改めて協会内外での対話を経て、しっかりとした方向性を定め、引き続き部会の土台づくりを行っていきます。具体的には研修委員会と共同での研修企画や、部会員間で話せる場づくり（オンライン含め）等の活動を計画しています。長期的には、協会全体として取り組むべき地域課題が見えてくれば、例えば政策提言委員会などと連動しながら、地域づくりや地域共生社会に関する政策（精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを含む地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業、生活困窮者自立支援法、障害者総合支援法、精神保健福祉法等）への提言も行っていきたい、そんな思いでいます。興味のある方は是非、本部会にご参加下さい。



訪問医療部会（病院型・診療所型）

西尾雅明(東北福祉大学)

当部会は、原則として、病院・診療所を実施母体としてアウトリーチ活動を行っている方たちを対象にしています。職種は問わず、将来的には部会の中で職種ごとのイベントを行うことも考えています。基本的な部会の活動方針は、①交流の場、②研修の場、③政策提言を検討する場、④立ち上げ支援を提供する場、の4つです。

上記の基本方針は、部会長の2名が適宜メールやリモートで議論をして検討してきたものです。今年度の主な活動は①であり、「顔合わせミーティング」と銘打って2021年9月4日と2022年1月29日の2回、ZOOMで2時間程度、実践報告、診療報酬改定等の情報共有、グループでのテーマ別討論等を行いました。参加者は1回目が20名（医師11名、看護師4名、PSW3名、OT1名、心理1名）、2回目が9名（医師6名、看護師1名、PSW1名、心理1名）でした。2回目のグループ討論のテーマは「行政を含めた多職種・多機関連携」、「訪問支援での安全対策（大阪、埼玉の事件を受けて）」で、活発な議論がなされました。後者が契機となり、当ネットワークのホームページ上の「『大阪・北新地ビル放火事件』『埼玉立てこもり銃撃事件』で被害にあわれた医療従事者、利用されておられた方々への追悼ならびに当団体の対応について（第一報）」の公表につながりました。

来年度は部会のコアメンバーを確定して、より具体的な部会の活動方針や会則を定め、また定期的な交流会も継続していく予定です。



訪問支援・訪問看護部会

増子徳幸(訪問看護ステーションWing)

令和3年度、訪問支援・訪問看護部会では、部会運営を議論できる体制をつくるため、経験豊富な支援者や有識者と意見交換を始めました。その中で部会規程の策定など今後の運営に最低限必要な整備や、研修委員会との合同研修を実施しました。しかし、部会単独での研修や交流会の企画など、部会としての動きを活発化させることはできませんでした。まずもって「誰がこの部会に集うのか？」ということすらきちんと周知できていない状況であり、残念に思います。とりまとめ役として力不足を痛感しています。

改めてのご案内になりますが、この部会は「精神科アウトリーチ（未治療・治療中断の方への訪問支援）」を担う方と、訪問看護のコメディカルの方、それらに関わる方々を対象としています。

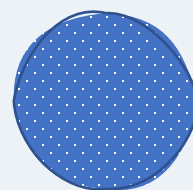
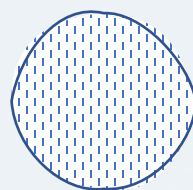
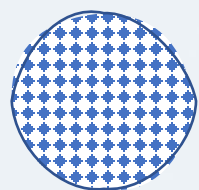
全国の、今も現場で地道に支援を積み重ねている支援者の方々。そしてその支援を受けつつ、山あり谷ありのリカバリーの旅路を歩んでおられる当事者の方々。皆さんの実践や人生の軌跡に学び、再び力を得て現場に戻ることができる。また現場で得たものを、部会に集う方々に共有することができる。そんな、素敵で循環が生まれる部会としていきたいです。その上で気を付けたいのは「現場にあるもの・出来事から離れない」「支援者・利用者の枠にこだわらない」ということです。

そのためにも令和4年度は、意見交換をしてくださる支援者や有識者とのコミュニケーションを密にし、定例会のような形にしたいと思います。そこで議論を積み上げ、部会としての方向性を決めつつ、部会に参加された皆さんのニーズに合わせて企画してまいります。まずは「コロナ禍に配慮した部会メンバー顔合わせ」の実現を目指します。これらの部会運営にご意見・ご要望のある方は、是非お気軽にアウトリーチネット事務局にお寄せください。皆さん、もう少々お待ちいただきますよう、よろしくお願いいたします！



子ども・若者支援部会

準備中



2021年度は一般社団法人コミュニティメンタルヘルスアウトリーチ協会（以下：アウトリーチネット）が本格的に活動を開始した初年度です。研修委員会としては、今年度3回の研修会を開催しました。それぞれの研修について整理するとともに、今年度の活動を振り返り、来年度以降の活動の展望についても触れてみたいと思います。

今年度、全国から集まった有志の皆さんとアウトリーチネット研修委員会を組織しました。毎月オンラインでの委員会を開催し、研修の企画から準備、運営などを行ってきました。委員会メンバーは、表の通りです。

以下2021年度に開催した研修の概要をまとめています。

- (1)2021年10月2日（ACT部会との共催）
「ACTフィデリティ調査員オンライン研修」
- (2)2021年10月30日（訪問支援・訪問看護部会との共催）
「アウトリーチ実践者オンライン研修～アウトリーチにおける関係作りに大切な視点～」
- (3)2022年 1月22日

エリア	氏 名	職 種	所 属
北海道	吉田 匡伸	Dr	札幌なかまの杜クリニック
東北	安保 寛明	Ns	山形県立保健医療大学
関東	足立 千啓	OT	メルクマールせたがや
中部	鴨藤 祐輔	OT	訪問看護ステーション不動平ぼっけ
関西	未定		
中四国	野上 俊子	OT	ACT-Zおかやま
九州沖縄	須田 竜太	PSW	Q-ACTくるめ

オンライン研修「ヤングケアラーについて知る～家庭全体を地域で支えるためには～」

この研修は、今年度の研修委員メインの企画として、約 1 年間準備を行い、開催することができました。第一部の講演は、「ヤングケアラーの現状と課題」と題し、横浜創英大学看護学部精神看護学教授の横山恵子さんに講師を務めていただき、当事者からの声として、こどもびあ代表の坂本拓さん、副代表の小林鮎奈さんにご講演いただきました。

我が国におけるヤングケアラーを取り巻く現状や課題を整理していただくとともに、当事者のお二人から、家庭の中がどのような状態で、どのように感じてきたのか、インパクトのある赤裸々なお話を聞くことができました。第二部のシンポジウムでは、「地域での支援を考える～家庭全体を地域で支えるためには～」というテーマで、シンポジストに第一部でご登壇いただいた3名に加え、中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長の朝比奈ミカさん、東京都あきる野私立南秋留小学校教員の遠藤康弘さんにご登壇いただきました。支援機関、教育機関、当事者それぞれの立場からのお話が、多角的な視点、様々な切り口からヤングケアラーの問題をとらえる機会となりました。

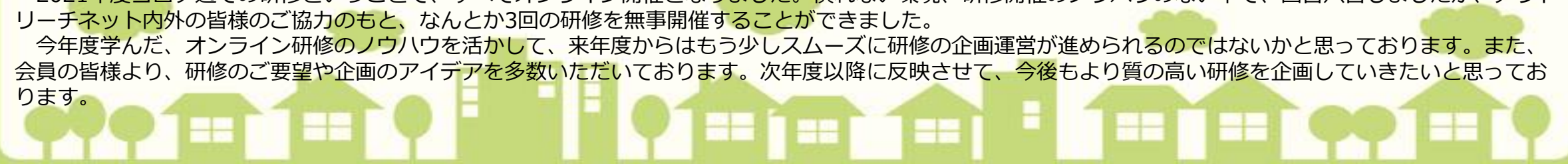
当日は、約120名の参加があり、シンポジウムでも積極的に多くのご質問をいただきました。まだまだ、課題の多いテーマではありますが、関心の高さや、課題解決に向けた取り組みなど、今後に期待が持てる研修会となりました。

ご登壇いただいた皆様、研修開催にご協力いただいた皆様大変ありがとうございました。

今年度の振り返りと来年度以降にむけて

2021年度コロナ過での研修ということで、すべてオンライン開催となりました。慣れない環境、研修開催のノウハウのない中で、四苦八苦しましたが、アウトリーチネット内外の皆様のご協力のもと、なんとか3回の研修を無事開催することができました。

今年度学んだ、オンライン研修のノウハウを活かして、来年度からはもう少しスムーズに研修の企画運営が進められるのではないかと考えております。また、会員の皆様より、研修のご要望や企画のアイデアを多数いただいております。次年度以降に反映させて、今後もより質の高い研修を企画していきたいと考えております。



政策・研究委員会

吉田光爾(東洋大学)

政策・研究委員会では、地域精神保健におけるアウトリーチ活動の推進に資するよう、調査や政策提言などを行っています。2021年8月～9月には『精神科在宅患者支援管理料』の運用実態についての調査を、会員・関係の医療機関の協力のもとに行い、『管理料1－ハ』の廃止に関しての問題点や、算定の上での障壁、2年間の利用期限についての問題点などをとりまとめました。これらの結果を厚生労働省精神障害保健課に提出し、現地にて意見交換を行っています。

政策・研究委員会では随時、このような調査活動・政策提言を行っていく予定ですので、「こうした調査が必要」「提言していく政策の方向性としては、このようなありかたがよい」など会員の皆様と協議・意見交換をしていただければと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員会

久永文恵(COMHBO地域精神保健機構)

広報委員会では、2020年に発足したアウトリーチネットの活動、そして「メンタルヘルス」について、専門職のみならず、広く地域で生活されている方々にもお伝えしていきたいと活動しています。

ニュースレター作成、ホームページ、Facebookなどを通じて、アウトリーチの今、メンタルヘルスの今を発信していく予定です。また、会員の皆様なしに会は成立いたしませんので、たくさんの方にご賛同いただけるよう、当会の魅力についてもお伝えしていきます。皆様にとって有益なコンテンツになるよう、ご意見やご要望を反映できるような仕組みづくりにも今後取り組んでいきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



～お知らせ～

第1回全国大会(研修・交流会)開催決定！(第1報)

「なぜアウトリーチなのか？」

2022年9月10日(土)～ 9月11日(日)オンラインにて

アウトリーチネットは、年に1回程度の全国大会(研修・交流会)を今後開催していく予定です。その記念すべき第1回目の全国大会を開催する運びとなりました。お申込み方法や参加費など、詳細が決まり次第また追って情報をお知らせいたします。まずは、日程の確保をお願いいたします！

プログラムから大会記念イベントをご紹介します！

大会記念イベントⅠ【一日目午前】：シンポジウム「アウトリーチの複雑さ・難しさについて」（仮）

- 登壇者： ① 伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ）「ACTの活動を通じての複雑さ・難しさ」（仮）
② 谷口仁史（特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス）「子ども・若者のひきこもり支援を通じての複雑さ・難しさ」（仮）
③ 西邑章（京都府中丹東保健所）「行政の立場や訪問型家族支援を通じての複雑さ・難しさ」（仮）
④ 米倉一磨（相馬広域こころのケアセンターなごみ）「東日本大震災後支援を通じての複雑さ・難しさ」（仮）

司会： 岡崎公彦（岡崎クリニック）、吉田光爾（東洋大学ライフデザイン学部）

大会記念イベントⅡ【二日目午前】：鼎談「アウトリーチの魅力やアウトリーチに必要なことについて」（仮）

- 登壇者： ① 大石智（北里大学医学部精神科学、相模原市認知症疾患医療センター）
② 熊倉陽介（東京大学医学部附属病院精神神経科）
③ 斎藤環（筑波大学医学医療系社会精神保健学）

大会記念イベントⅢ【二日目午後】：教育講演「感情労働～人とのかかわりを職業とすることの意味」（仮）

登壇者： 武井麻子（Office Asako、日本赤十字看護大学名誉教授）

その他、当法人の各部会による分科会やアウトリーチネットについての説明会なども企画中です！

皆さまのご参加を
心よりお待ちしております。

